

Title	アカデミックカレンダー国際化の可能性と意義に関する研究
Author(s)	Erdembileg, Delgersaikhan
Citation	令和元（2019）年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書
Issue Date	2020-06
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/75969
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2019年度大阪大学未来基金【住野勇財団】学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書

ふりがな氏名	でるげるさいはん　えるでむびれぐ Delgersaikhan Erdembileg	学部 学科	法学部国際公 共政策学科	学年	3 年
ふりがな 共 同 研究者氏名	もりおかとうこ 森岡瞳子	学部 学科	法学部国際公 共政策学科	学年	2 年
	まつおたいすけ 松尾泰輔		法学部国際公 共政策学科		2 年
	ひさおかももこ 久岡桃子		法学部国際公 共政策学科		2 年
アドバイザー教員 氏名	山内直人	所属	国際公共政策研究科		
研究課題名	アカデミックカレンダー国際化の可能性と意義に関する研究				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。記入にあたっては、「大阪大学学術情報庫 OUKA」に掲載されるため、 必ず様式4の（2）の注意に従い作成すること 。（先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。）				

1. 研究目的

世界大学ランキングを見ると、日本の主要大学の順位は各国の主要大学に比べて低い位置にある。様々な原因が考えられるが、日本の多くの大学は国際性の低さが総合順位を下げているといわれる。国際性は、留学生受け入れ比率、国際的共著、外国人教員比率などで評価されるが、本研究では留学生の受け入れを学年暦（アカデミックカレンダー）の国際標準とのズレが阻んでいるのではないかという仮説をもとに調査を進めた。例えば欧米の大学では秋入学が多いのに対し、日本の大学の多くは4月入学である。このズレが留学生の日本の大学への入学の際の障壁となり、日本の大学の国際化を阻んでいるのではないかと考えた。

諸外国の学年暦を調査し、日本の大学の学年暦と比較する。その上で日本の大学が学年暦を国際基準に合わせることは可能かどうか検討する。また学年暦を国際化することで留学生誘致にどの程度効果があるかを国際的な学年暦を採用している国際基督教大学へのヒアリング調査から予測する。

現在日本は受け入れ留学生数の数が年々増加してはいるが、世界と比べるとその数は少ない。また世界大学ランキングにおいても他の先進国の大学と比べると国際性のスコアが低く、国際化が進んでいるとは言えない。大学の国際化は日本人学生の国際理解の増進や語学力の向上が見込まれ、さらに大学に国際的なイメージが定着すればますます大学のブランド力、知名度が向上する可能性がある。この現状から大学の学年暦を国際基準に合わせることで留学生誘致を促進し、日本の大学が国際化することは重要である。この研究活動が、今後教育分野において日本が世界と足並みをそろえていくための足掛かりとなることを期待する。

2. 調査方法

まずインターネットを利用して世界の大学のアカデミックカレンダーと比較するために日本の大学のアカデミックカレンダーの現状を調べる。そして世界の主要大学のアカデミックカレンダーの現状を把握するため、同じくインターネットを利用して、アメリカ、中国、ヨーロッパ等の大学のアカデミックカレンダーを調べる。日本と諸外国の大学の学年暦にどの程度の差があるのかを確かめた。

次に大阪大学大学院を卒業した外国の方 2 名に学年暦についてアンケート調査を行った。以上のような WEB 調査及びアンケート調査を実施した後、国内大学でのヒアリング調査を行った。ヒアリング対象は国際化が進んでいるとして高い評価を受けている国際基督教大学である。アカデミックカレンダーの国際化対応、またその効果、受け入れ留学生の現状などについてヒアリングを行った。

3. 調査結果

3. 1. 日本の大学のアカデミックカレンダーと留学生

現在、日本では 2 学期制を取り入れている大学が多い。また国立大学などで 2 学期制をさらに分割した 4 学期制を取り入れている大学も見受けられる。

また日本が平成 30 年 5 月 1 日時点で高等教育機関に受け入れている留学生数は 208901 人である。留学生の出身地域別にみるとアジア出身の学生数が全体の 92.4%、欧州・北米出身の学生数が 4.9%、残りはアフリカや中南米の学生である。このことからわかるように日本はアジア出身の留学生の受け入れが多く、欧米出身の留学生の受け入れはそれに比べて少ない。

3. 2. 海外大学のアカデミックカレンダー

各国のアカデミックカレンダーはまず二学期制、三学期制、四学期制に分けることができる。学期の始まる時期は国によって細かくは異なるものの多くの国において秋入学が主流である。初めにアジア圏の各国の入学時期の大きな傾向について述べる。中国は二学期制のもとで 9 月入学、韓国は四学期制のもとで三月入学である。次に欧米諸国について述べる。オーストラリアは二学期制のもとで二月入学、オーストラリアも二学期制の下で 9 月入学、イギリスは三学期制のもとで九月入学、ニュージーランドは二学期制のものと二月入学、カナダは三学期制の 9 月入学、アメリカは学期制は大学によって大きく違い学期ごとに入学機会があるが新学期は秋から始まる。

3. 3. 卒業生へのアンケート調査

今回のアンケート調査では 2 人の大阪大学大学院の卒業生に回答して頂いた。以下にアンケートの内容を記述する。

(A さん)

〈出身国での卒業大学〉山東師範大学 外国語学部 日本語学科

〈日本に留学しようと思った理由〉異文化に興味があるから

〈大阪大学の OSIPP に留学しようと思った理由〉受け入れてくれた先生がいたから

〈留学後のキャリア〉国内で日立に就職

〈卒業生として大阪大学に改善・拡充してもらいたいこと〉奨学金

(B さん)

〈出身国での卒業大学〉上海外国語大学 日本文化・経済学部 国際経済・貿易学科

〈日本に留学しようと思った理由〉学位取得のため・将来海外で働くため

〈大阪大学の OSIPP に留学しようと思った理由〉

先輩が留学していたから・有名校だから・様々な国からの留学生がいるから

〈留学後のキャリア〉国内で東芝に就職

〈卒業生として大阪大学に改善・拡充してもらいたいこと〉奨学金・就職活動支援

本アンケートでは〈卒業生として大阪大学に改善・拡充してもらいたいこと〉の質問項目で回答選択肢に「秋入学の導入」を入れ、留学生の学年暦への意識調査を試みたが、2 名とも学年暦の改善を希望す

る意思はないという結果となった。今回のアンケート調査は中国人留学生を対象を絞ったこと、調査対象が少ないことが課題であるので、今後この研究活動が続けるならばより多くの人数と多様な出身国の留学生を対象にアンケート調査を行いたいと思う。

3. 4. 国際基督教大学へのヒアリング調査

多くの大学のアカデミックカレンダーは2学期制、また国立大学などもそれをさらに分割した4学期制であるのに対し、国際基督教大学（以下、ICU）のアカデミックカレンダーは3学期制である。アメリカの大学が考慮された学年暦であり、これは日本初の9月入学を取り入れたものである。9月入学はアメリカなどの諸外国のアカデミックカレンダーと同じであるので、留学生は自国の学生生活とずれがなく日本に留学しやすいと考えられる。もちろん日本学生のために4月入学も行っている。少子高齢化で日本人受験者は減少している一方で、9月入学者は増えているという。ICUの学生数は2018年5月現在、学部生・院生合わせて296名である。これは全学生数の9.2%を占めている。またICUの特徴として他の大学の留学生は中国や韓国などアジア出身の大学が大半であるのに対し、欧米の留学生が多い。これは上述した外国のアカデミックカレンダーより、9月入学も一因となっているだろう。

また、ICUではシリア等の難民の受け入れにも力を入れている。そして実際に彼らを受け入れるための環境の準備も幅広く対応している。例として、イスラム教のラマダン対応やお祈りのための教室確保、また食堂ではハラルメニューの提供などが挙げられる。このようにアジア、欧米だけでなく様々な地域出身の学生に対応している。

ICUはアカデミックカレンダーだけでなくカリキュラムも国際色が強い。ICUで行われているリベラルアーツ教育とはアメリカなどの大学で行われている教育課程である。文系・理系の区別なく幅広い知識を得た後に、専門性を深めることで豊富な知識に裏打ちされた創造的な発想力を養うことができるという。他大学では入学時に学部という形で希望専門分野を決定するのに対し、ICUではリベラルアーツ教育に則り入学時に希望専門分野を決める必要がない。2年次までに幅広い教養分野や専門分野の基礎科目を文理問わず学ぶことができる。そして3年次に専攻科目を決定し卒業まで専攻科目を深く学ぶというカリキュラムである。この教育課程によって学生が様々な分野に触れた後に本当に学びたいことを学べる環境になっている。アメリカに倣った国際性の高い教育である。

ICUの例から、国際性の高い教育カリキュラムはもちろん、9月入学を取り入れた国際的なアカデミックカレンダーもまた留学生にとって入学しやすい環境づくりの一つになることが分かる。また9月入学はアジアのみならず、欧米の入学時期と同じである。現在、日本が受け入れている留学生の大多数はアジア圏出身であり、欧米出身の留学生数はアジアのそれと比較すると少ない。ICUがそうであるように、9月入学の導入はこういった学生の出身地の偏りを失くすことに繋がる可能性がある。

4. 課題と提言

9月入学を取り入れることによって他の国々と足並みを合わせ、留学生をより誘致することができる。さらに日本からの留学も容易になる。しかしながら、現在4月入学が主流であるなかで急に9月入学を取り入れることは学生の混乱を招いてしまう。そこで本研究では2通りの制度変更を提言する。一つは3月入学の導入、もう一つは三学期制の導入である。

まず3月入学とは現状のクォーター制、セメスター制を維持したまま入学時期を三月に前倒しにすることで9月入学の導入と同様の効果を得ようとするものである。具体的には3月～5月初旬を春学期、5月中旬～7月下旬を夏学期、9月～10月中旬を秋学期、10月下旬～1月中旬を冬学期、又は前期を3月～7月下旬、後期を9月～1月とする。さらに新学期は3月から開始するが、秋学期の開始する9月

にも入学機会を設ける。このことで、現状の制度変更からの混乱を最小に留めつつ秋入学も容易になることが期待できる。しかし急に 1 か月前倒しにすることはやはり少々の混乱を招くだろう。高等学校の卒業時期とうまく合致しないからである。そこで私たちは年毎に 1 週間ずつ入学時期を前倒しにし 4 年後に実現するという方法を提案する。そうすることで高等学校やその下の幼稚園・小中学校にも混乱が最小になると考える。

次に 3 学期制について検討する。三学期制は ICU で取り入れられている制度であり、3 月入学と比べた時の大きなメリットは入学時期を 4 月から変更しないままで 9 月入学も可能になる点である。3 学期制においては 4 月～7 月下旬を 1 学期、9 月～12 月を 2 学期、1 月～3 月を 3 学期し、さらにそのすべてのタイミングでの入学を認める。しかしながらこの方法では現在のクォーター制、セメスター制は維持できない。三学期制のメリットとしては 9 月入学が可能になることのほかに履修科目の選択の機会が増えるため柔軟な履修計画が可能になることがある。しかしながらデメリットも数多く考えられる。履修登録、評定、テストが増えるのでコストや教師の負担が増えること、長期休暇が減るため長期休暇を利用したインターンシップ、ボランティア活動や留学に取り組むことが難しいこと、また一斉に導入しなければ他大学からの編入が困難であること、クォーター制の学期制度と比べて短期間につめこむため知識の定着が難しいことやテスト期間が分散されないなどである。このため 2 学期制の大学が 3 学期制に変更することは多くの困難を伴い混乱が大きいと予想されるので難しいと考える。

世界各国のアカデミックカレンダーとヒアリング調査の結果を踏まえて、入学時期の 1 か月前倒しによる 3 月入学は留学生の入学しやすい環境づくりの一環となり、各大学が留学生を誘致するのに有効であるといえる。また前に述べた通り 3 月入学の導入は日本人の入学者や在学生にとって混乱が最小であり、大学側もカリキュラムを 1 か月前倒しにするという方法で実現できるので実現可能性は高い。

参考文献

ICU ホームページ <http://www.icu.ac.jp/>

JASSO「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果」

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2018/ref18_03.html#no1

Australian Government

<https://web.archive.org/web/20121022001900/http://australia.gov.au/topics/australian-facts-and-figures/school-term-dates>

ロンドン留学センター <https://www.london-ryugaku.com/university/>

Ontario Ministry of Education

<http://www.edu.gov.on.ca/eng/general/list/calendar/holidaye.html>

中国留学ナビ https://www.chinainternship.co.jp/university/beijing/seika_daigaku.html

国別留学ガイド ニュージーランド

<https://tobitate.mext.go.jp/countryguide/nz/>

SEOUL NATIONAL UNIVERSITY

<https://www.useoul.edu/academic-calendar>

MIT Registrar's Office

<https://registrar.mit.edu/calendar>

PRINCETON UNIVERSITY Office of the Registrar

<https://registrar.princeton.edu/academic-calendar-and-deadlines>